



原発ゼロ市民共同かわさき発電所は、「川内原発の再稼働に反対し再生可能エネルギーの推進を求める声明」(第1号声明)を決定しました。



原子力規制委員会は2014年9月10日、全国から寄せられた約1万7千通のパブリックコメントについて審議することもなく、それゆえ意見をほとんど反映することなく審査書を確定させ、九州電力の川内原発1・2号機が原発の新しい規制基準を満たしているとの審査結果を正式に決めた。

しかし、新規制基準は福島第一原子力発電所事故の原因も究明されない中で作られた不十分な基準である。また、9月27日に木曾の御嶽山が突然噴火したことからわかるように、火山の噴火は予知予測がしがたい。川内原発の周辺にある阿蘇、桜島などの火山の危険性についても、考慮していないと専門家が指摘していることから不十分な基準となっていることは明らかである。このように不十分な基準への合格である上に、「安全ということは申し上げられない」と規制委員会の田中俊一委員長が明言している原子炉を再稼働することは、レベル7の過酷事故を視野に入れて再稼働することになる。川内原発が過酷事故を起こせば、吹き上げられた放射能は偏西風に乗って関西圏さらには関東圏にまで及び、被害が福島第一原発事故の被害を凌駕すると言われている。

さらに問題なのは、再稼働によって作り出される高レベル放射性廃棄物(死の灰)を、安全に長期間(10万年から100万年)保管する場所や施設の準備もないままに再稼働を進めることである。将来の日本人、いや世界の人々に膨大な経済的負担と精神的な負担を負わせるだけでなく、生涯にわたって消えることのない放射能汚染による健康被害の危険にさらすことになる。

日本は雨が豊富で無数の川を水が流れ下り、太陽はさんさんと照り、地下には地熱が蓄えられ、山は緑で覆われ、山の中腹から上では強い風が吹くというように、世界でもまれに見る再生可能エネルギーの宝庫である。長い年月と数兆円の費用をかけても見通しの立たない核燃料サイクルの開発を止め、その費用を再生可能エネルギーの開発と省エネルギー技術の開発や、多極分散型・省エネルギーの社会構造への移行を推進すれば、それらの分野で最先端になる潜在力を日本は持っている。

私たちは、川内原発をはじめとする全ての原発の再稼働に反対する。さらに再生可能エネルギーを中心とした、安全で安心して暮らせる社会の創設を強く求める。

2014年9月28日



■かわさき市民共同発電所 第1号機 仕様決定までのプロセス■



第1号機 設置マンションの屋上

総刊号で事業検討チームの木田千栄美さんが第1号発電所となる田邊さんのマンション視察から始まり工法検討、収益予想、私たちの発電所が他の市民発電所のないリアルタイムモニタリング方式の優位性を記事にさせていただきましたので、私の担当した構造検討について述べたいと思います。

今回、発電設備を載せるマンションの屋根は連続支持合成スラブを採用しており鉄骨梁の上に高さ 50mmのデッキプレートを載せ、その上にコンクリートを厚さ 60~80mm施工しています。

構造計算書、詳細図がなかったため建設当時の積雪荷重（短期

荷重）を $60\text{kg}/\text{m}^2$ と想定すると長期積載荷重（自重を除く固定荷重+積載荷重）は $60\text{kg}/\text{m}^2 \div 1.5 = 40\text{kg}/\text{m}^2$ となり、バラスト（コンクリート成形品によるおもり）方式では荷重オーバーになりました。パネルを凹凸に並べ置き型で風荷重を相殺させる（Kシステム）方式の提案もありましたが、パラペット（屋根端部の立ち上がり）高さを超えた部分から風の影響を受け浮力が働き期待している摩擦抵抗がなくなることからこの方法も断念しました。この結果、パラペットにアンカーを打ちパネル（架台）を風荷重から保護するエコテック社の方式を採用することになりました。

第1号発電所仕様

WEB 上で発電量のモニタリングが可能になっています 《※印は予定》

施工会社	設備容量	工事費	kw単価	通電式	パネル	数量	パワコン	傾斜角
(株)エコテック	25kw	約 750 万円※	約 30 万円※	2015.3.1※	多結晶	100 枚	独 SMA 製	5 度

価格面で損益計算書を赤字にするわけにはいかないため、中国産パネルを採用することでマンションオーナーの田邊さんに工法を含めご了解いただきました。何度も協議させていただきありがとうございました。近年の異常気象で風速 $34\text{m}/\text{sec}$ や積雪 30cm という設計基準も見直しが必要です。屋根を貸してくださるビルオーナーさんのためにも必要な対策は十分考慮すべきです。私たちの目的は、脱原発、再生可能エネルギーの普及・発展にあるのですから！

脱原発かわさき市民共同発電所では世界に発信できる「どこでも発電」を提案できる NPO になればと願っています。

事業検討チーム 永田 眞一



■ 固定価格買取制度の問題点と今後の提言の方向性 ■

2012年より、日本でも再生可能エネルギーに関する固定価格買取制度（Feed in Tariff, FIT）の制度が施行された。FITは確実に太陽光発電や風力発電の普及を後押しし、着実に成果を出しつつあるのはご存知のことだろう。

しかし、一定の成果を出しているものの、この制度には多くの問題が指摘されている。そのうちの1つが、太陽光発電の調達価格・期間の分類方法である。現在、太陽光発電は10kW未満と10kW以上の2つに分類されてそれぞれ調達価格が設定されている。

この分類方法が意味する屋上を対象として太陽光発電所と、大規模開発・大ガソラー事業者が、同じ買ることである。簡単に太陽光徴の違いを下の表にまとめ



ことは、集合住宅やビルの電を設置し事業を行う市規模投資が可能である買取価格で事業を行って発電の施設規模とその特た。

この表からわかるように、一般家庭程ではないがある程度の規模を持つことが多い市民発電は、その地域に根付いた活動であり、その地域社会に直接貢献できるという大きなメリットを持ちながらも、その多くが資金難であること、システム費用が比較的高いことから、そのメリットを十分に活かせずにいることがわかる。

我々政策提言チームは、市民発電という立場から地域貢献という隠れた利益の重要性を認識しつつ、10-500kWの調達価格分類を追加し、500kW以上の区分よりも調達価格を高くすることを、調達価格・期間の決定機関である調達価格等算定委員会に向けて提案していきたい。実際、この区分の見直しと調達価格の変更は、昨年度の調達価格等算定委員会でも議論されたが、10-500kWの区分が持つ地域貢献というポテンシャルや、それらの区分の事業者の資金繰りの難しさについては十分に議論がされなかったのが現状である。提案に向けて、他の市民発電とも協力体制を築き上げつつ、それぞれの市民発電が持つデータやその地域貢献の実態、市民発電という取り組みの日本全体のポテンシャル等の具体的なデータを収集し、今年度の調達価格等算定委員会における議論に一石を投じる所存である。

政策検討チーム 小西 隆介

表：施設規模による分類とその特徴

（「平成26年度調達価格及び調達期間に関する意見」をもとに作成）

施設規模	10kW未満	10kW-50kW	50kW-500kW	500kW以上
主な事業者	一般家庭	市民発電 (資金難)	大規模施設保持者 (多くは企業・公共)	企業 (多くは大企業)
システム費用	36.9万円/kW	32.4/kW	29.4/kW	27.5/kW
地域貢献	△	◎	○	△
現状の調達価格	37円/kWh	32円/kWh		
提案する調達価格	37円/kWh	32円/kWh以上		32円/kWh



■自己紹介コーナー■ No.2

創刊号でご紹介しましたメインビジュアルキャラクター『レッサーパンダのでん太くん』に引き続き、今月号は、第1号機設置マンションのオーナーでいらっしゃる田邊勝義さんの自己紹介です。

原発のない再生可能エネルギー社会へ



1982年川崎市は「核兵器廃絶平和都市宣言」をしました。私はその趣旨（恒久平和、核兵器廃絶、非核三原則の遵守、軍縮）を実現するために、「宣言」記念日の6月8日前後に「平和をきずく市民のつどい」を32年間仲間と共に開催し続けてきました。

「つどい」のスローガンは、その時代の課題解決を目指すものですが、「核兵器廃絶、被爆者援護」は一貫しており、

「憲法9条は世界の宝 日本の誇り」もあります。福島原発事故以後は「原発は知らない 子どもたちを放射能から守ろう」も掲げています。

それで、脱原発のデモ、運動にも参加してきましたが、太陽光発電をすれば脱原発、再生可能エネルギーへの転換を自分の力で出来ると考えていました。そこに「脱原発市民共同発電」の動きに出会ったのです。まさに、渡りに船でした。それは多数の市民の力があって原発依存の社会を変える事が出来ると考えているからです。

今後福島の子ども、住民に、放射線被曝による健康障害という大惨事が起こります。既に子どもたちの甲状腺癌（普通100万人に1人）及びその疑いが約30万人中90人程見ついているからです。この共同発電所の運動が発展して、福島の被爆者を救えればと思います。

理事 田邊 勝義

上映会「シェーナウの想い」 & 公開セミナー「市民で作る自然エネルギー」

11月2日(日) 10:00~12:00 中原市民館 第1会議室

14:00~16:00 東海道かながわ宿交流館 第2集会室

18:30~20:30 高津市民館 第1会議室

※入場無料

■原発ゼロ市民共同かわさき発電所■ (NPO 法人申請中)

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

【編集後記】

10月11~12日、当会主催「小田原 再生可能エネルギー視察旅行」に行ってきました。メガソーラーや小水力発電など facebook に写真を掲載しておりますのでご覧いただければと思います。今回は他にも小田原城址を散策したり、「清閑亭」を訪れたり、「星が山コテージ」に宿泊できたことも思い出深く、学習も観光も堪能させていただいて小田原がとても好きになりました。(加藤伸子)

